

実施年月日	第33期 第2回 運営審議会			令和6年3月5日10時から実施	
会場	中央公民館 403・404 講座室		傍聴人	0人	
出席者	委員		井上 経久、笠原 直美、佐藤 美紀子、 鈴木 昌清、藤瀬 竜子、渡辺 和美		
	事務局	中央公民館	渡部 和人、伊藤 聡、岡村 瑞穂、野口 美奈子、八木 京子		
		鳥屋野地区公民館	原 政之		
		東地区公民館	新田 直子		
		関屋地区公民館	関口 亨		
議題・報告	(1) 令和5年度公民館事業実地状況報告 (2) 令和6年度 当初予算について (3) 令和7年度新潟市公民館運営審議会について (4) 意見交換（令和6年度公民館事業について） (5) その他				
	1 開会 2 公民館長挨拶 3 議長挨拶 4 報告事項 (1) 令和5年度公民館事業実施報告について <中央公民館・渡部館長>（資料1）。 ・コロナが5類扱いになったため、中央区内公民館では中止の事業はなく、ほぼ予定通りに進捗した。 (2) 令和6年度当初予算について <中央公民館・岡村主幹>（資料2） ・令和6年度の歳入予算は令和5年度と同程度。 ・歳出予算に関しても、令和5年と同程度の見込み。 ・管理運営費は、委託費の増加を見込み予算を増額。 (3) 令和7年度新潟市公民館運営審議会について <中央公民館・渡部館長>				

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は、8区にそれぞれ設置している運営審議会を、令和7年度から一本化すべく検討中。 ・現時点の案では、各区から1人ずつ選出された委員が、市全体の公民館のありかたや方向性を検討するイメージ。 ・一本化後は、各区運営審議会が担っていた役割を、各公民館の活動協力員会議に移行し、地域に根差した活動などを検討していく予定。 <p>【主な意見・質問など】</p> <p><鈴木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と公民館に密接なつながりを持つ活動協力委員と、公民館の管理運営や事業に関して意見を交わすことは賛成。 ・各区から選出する委員の人数については要検討。 <p>→<中央公民館・渡部館長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟市の他の審議会等とのバランスを見ながら決定したい。 <p>(4) 意見交換（各公民館が持つ課題について意見交換。）</p> <p><中央公民館・渡部館長> 「みんなのふれあい広場」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な参加者は高齢者のリピーターだが、様々な世代の参加による活性化を望んでいる。 <p>【主な意見・質問など】</p> <p><藤瀬議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットと企画がマッチしているか。また、広報の方法も工夫が必要。 ・若者に対しては、口コミでの拡散を意識した広報が有効と思われる。 <p><笠原副議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館でチラシ・ポスター・活動をPRする冊子を作成し、定期的に商店街やスーパー、医療機関等への設置や、コミ協へ回覧してはどうか。 <p><鈴木委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とテーマが広すぎる。テーマを絞る必要がある。 <p><渡辺委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業受講者への来た人に声をかけて誘うべき。 <p><佐藤委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館に通うきっかけづくりとして、地域の商店等と連携し、飲み物等を提供してはどうか。
--------	--

内 容

<井上委員>

- ・幅広い世代が参加するには厳しい時間帯に開催している。

<関屋公民館・関口館長>「幼児期家庭教育学級」について

- ・乳児期と比較して、家庭教育学級参加者数が減少する。
- ・保育室を設けると、定員が限られてしまう
- ・この前提の中で、保育を付き事業として参加者を増やすことが課題。
- ・区単位での開催も検討していきたい。

【主な意見・質問など】

<藤瀬議長>

- ・対象者が地域に少ないのか、開催場所が悪いのか、他で類似事業があるのかなど、他の公民館とも比較も含め分析が必要。
- ・企画内容等の工夫として、福祉的観点に詳しい方を組み込んではどうか。

<笠原副議長>

- ・福祉の観点は組み込むべき。興味がない人を集めようとしてもなかなか思うようにはいかないのでは、出前講座としてある程度強制的に話を聞かせる方法も考えられる。
- ・例えば、幼稚園や保育園の保護者の会に話を聞き、ニーズを把握した上での講座実施ができれば人を集めやすい。「発達障害」をテーマにすれば人を引き付けると思う。

<鈴木委員>

- ・子育て関連の講座の実施は地域にとっても意義がある。予算が少なくなっても残していくべき。

<渡辺委員>

- ・子育て時代を応援する場、お母さんが安心して学べる場を作るため、公民館は保育付き家庭教育学級を実施している。
- ・人数を集めるのが難しいならば、保護者同士が誘い合ってきてもらう環境を作れるか模索してほしい。

<佐藤委員>

- ・幼児期家庭学級はなくさないでほしい。場所を公民館だけにこだわる必要はない。

<井上委員>

- ・課題は、参加者の減少と費用がかかる点。
- ・家庭教育学級の現状や課題は、地域の課題であるとも言える。地域の人たちに問いかけてみることで、ニーズが顕在化される。

<東地区公民館・新田主査>「地域活性化支援事業」について

- ・大学生・高校生が地域活性化活動を行うため、沼垂地域の空き家を借り、企画・準備をしているが、予算がない。
- ・この状況下で、学生たちに地域活性化活動を展開してもらう方法はないか。

【主な意見・質問など】

<藤瀬議長>

- ・群馬には、市から委託を受けた大学が、学生主体でカフェを運営している事例がある。
- ・行政や民間の補助金等を受けることも学生の学びになる。

<笠原副議長>

- ・お金を持ってくる方法を学生たちで考えることの貴重な経験。

<鈴木委員>

- ・商店街の活性化は公民館の仕事ではなく行政の仕事なのではないか。
- ・逆に行政や沼垂商店街のほうから、公民館に声をかけるのはどうか。

<渡辺委員>

- ・学生主体で動いてもらう中で、大人が口出ししすぎないように見守っていくべき。

<佐藤委員>

- ・募集方法はどのようなものか。

→<東地区公民館・新田主査>

- ・高校からは部活動単位で参加をお願いしている。大学については、学校から希望者を募ってもらっている。

<佐藤委員>

- ・公民館あるいは沼垂商店街のほうである程度のゴールを設定し、行き着くまでの過程は学生に任せるといった形が望ましい。
- ・古き良き時代の沼垂を懐かしむことができる工夫をすれば、年配の方も巻き込める。

<井上委員>

- ・時間はかかると思うので、長いスパンで取り組むべき。大人は思惑を抑え、学生のサポート役に回るべき。

(5) その他

<中央公民館・岡村主幹>「公共施設の受益者負担」について

- ・市内公共施設の使用料基準は今までバラバラだった。基準を設け、それに沿

って使用料を徴収していく。2月下旬にパブリックコメントを募集した結果が、現在ホームページに掲載されている。公民館は、基準に沿って使用料の見直しを行っていく。

<中央公民館・渡部館長>「組織体制の見直し」について

- ・次年度、組織の改編について検討を進めており、生涯学習センターと中央公民館を融合する方向で検討を進めている。
- ・施設の管理運営・事業実施の一元化により、効率性が向上するとともに、利用者の利便性の向上を図りたい。

【主な意見・質問など】

<井上委員>

- ・運営審議会の本体化について異論はないが、今まで関わった人たちへ丁寧に説明する機会を作るべき。

→<中央公民館・渡部館長>

- ・現時点での検討事項として説明させてもらった。進捗があった場合は説明していきたい。

5 閉会